

機能毎の病床の状況について

病院名: 国保中央病院 医療圏: 東和

※H28年度の列は、別紙1－3「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。

※R7年度、R8年度(2026年度)の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

			(a)	<R7年度> 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)		(単位:床)	
			<H28年度> 許可病床数				(b)	(b-a)
							将来 (R8/2026年度) 病床数	H28年度からの 増減 (自動計算)
一般 病床・ 療養 病床	高度急性期		4床			→		-4床
	急性期	重症	97床	103床	83床		95床	-2床
		軽症	69床	67床	67床		60床	-9床
	回復期		50床	44床	44床		44床	-6床
	慢性期							0床
	休棟中 (今後再開する予定)							0床
	休棟中 (今後廃止する予定)							0床
	(合計)(自動計算)		220床	214床	194床		199床	-21床
精神病床							0床	
結核病床							0床	
感染症病床							0床	
介護医療院							0床	

※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。

(注1) 最大使用病床数
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

1. 基本情報

病院名：国保中央病院

医療圏：東和

2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

（１）これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

基本的なスタンスとしては軽症急性期医療を中心とする病院であると考えています。地域の特に高齢者の救急医療をカバーして、当院にない診療科や専門分野については奈良医大や奈良県総合医療センター、天理よろず 병원とタイアップしていき、逆に脊椎外科や足の外科、手の外科など専門性の高い分野では当院が中心となって分担させてもらう予定です。

また当院の特徴としては、小児科では小児救急のみならず、小児アレルギー専門医の指導の下、小児アレルギーエデュケーター（PAE）をもつ看護師、栄養師、薬剤師でのチーム医療を行っており、多くの小児患者の検査、診療を行ってきています。

（２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

内科と外科では消化器内科を中心に高齢者救急を積極的に行い、救急車応需率をアップさせていきます。磯城消防は当院のすぐ隣接する場所に移転するため、タイアップや情報交換会などを通して、十分に救急医療に対応できる体制を整えています。令和6年6月から診療報酬改定に新たに設定された地域包括医療病棟を奈良県で初めて導入して、3階病棟を充てて稼働させてきました。救急と早期リハビリ、栄養指導など含めて早期退院に努めております。

（３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

在宅復帰を支援するために令和2年から訪問看護ステーションを稼働させており、その患者数は年々増加しております。そのため在宅後方支援に関しても充実させております。訪問診療については、当院医師の働き方改革の観点から医師数は不足と考えられ、また地域の診療所等が訪問診療を行って頂いていることもあり、現在のところは訪問看護を中心に考えています。

（４）今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療DX、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

当院は基本的に奈良医大各診療科からの派遣で医師は確保しております。また奈良県に対しても県立医大医師派遣センターを通して、当院の問題点等は伝えております。

医師以外の医療従事者等についても、当院は公立病院として、各種手当や休暇制度等の福利厚生が比較的充実しており、安定した勤務環境を整えています。このため、現時点においては医療従事者の確保について大きな支障は生じておらず、医療提供体制は概ね維持できている状況であると考えます。

3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

[1-2]手術の実施

消化器:乳腺:泌尿器:(男性)生殖器

[1-3]化学療法の実施

実施している

[1-4]放射線治療の実施

実施していない

[1-5]拠点病院等の指定

奈良県地域がん診療連携支援病院

[1-6]特記事項

当院は奈良県地域がん診療連携支援病院として活動しており、消化器内科と消化器外科による消化器病センターを保持して急性腹症輪番にも参加しています。

奈良医大、天理よろず相談所病院や奈良県総合医療センターなどとも連携を図りながら、重度の手術治療はやや難しいものの、その後のケアや療養などは可能です。

また緩和ケア病棟を有しているため、適応のある患者さんの受け入れを従来通り行っていく予定です。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

—

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

—

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

—

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

—

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

—

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

—

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

—

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

—

[3-9]特記事項

—

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けている

[4-3]大腿骨骨折への対応

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加している

[4-6]特記事項

桜井地区輪番制や重症腹症ネットワークに参加し、小児に関しては中南和小児科二次救急輪番体制に参加しており、今後も維持していく予定であります。

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

—

[5-4]訪問リハビリの実施

実施している

[5-5]通所リハビリの実施

実施していない

[5-6]今後の方向性

循環器内科や心臓血管外科の積極的な入院治療を行っていないため、心血管リハビリは制限されています。また脳血管にリハビリに関しても脳神経内科や脳神経外科がないために限定的です。

主に運動器リハビリをおこなっており、地域包括ケア病棟および地域包括医療病棟におけるリハビリは、自宅退院に向けてのリハビリを施行しています。

また令和6年6月から開設した地域包括医療病棟での365日リハビリで、土日祝日のリハビリも行っています。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

対応していない

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

無し

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]特記事項

—

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ある

[7-3]上記でありの場合、その名称

国保中央病院訪問看護ステーション

[7-4]特記事項

令和2年から訪問看護ステーションを稼働させており、その患者数は当初は増加傾向でありましたが、最近では横ばいであり、今後検討課題としています。

各診療科とのタイアップを密に行って、効率的に患者数を増加させるようにしていく予定です。そもそも訪問看護および訪問診療の需要はこれからも増えることが予想され、今後も規模を拡大し対応していく予定です。

[8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について
定めている

[8-2]特記事項

現状では、指針を定めて院内に取り組みを定着させることに重きを置いている。将来的には、他の医療機関等との連携を図っていきたいと考えている。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

[9-2]小児入院医療管理料の算定

算定している

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

算定していない

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

受け入れている

[9-5]特記事項

小児医療は、急性期医療（救急を含む）だけでなく慢性疾患（アレルギー疾患、けいれん性疾患、腎疾患、内分泌・代謝疾患）の診療にも力を入れています。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

—

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-4]E M I S（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]特記事項

—

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

—

[12-3]特記事項

—

[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[13-1]当該領域について対応しているか？

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けている

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当する

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当する

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当する

[13-7]特記事項

奈良県立医科大学付属病院や西和医療センターからの初期研修医を受け入れています。小児科、緩和ケア科などを中心に研修、指導を行っています。

[14]医師の働き方改革

[14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

[14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

[14-3]特記事項

当院は宿日直許可を平成17年に得ています。
現状では医師の超過勤務時間は20時間未満であり、他業種でも10時間以内で経過しております。
時間外は病院内でとどまらず、自己研鑽に関しては帰宅後行っているのが現状です。
ただ今後も医師の超過勤務時間などは常に把握し、時間数の多い比較的多い診療科や医師への指導などは随時行っていきます。現在のところ適正時間内になっています。また本来の医師の仕事以外の事務的な仕事に関しては、タスクシフトとタスクシェアリングをすでに実行しており、さらに充実させていく予定です。
また複数主治医制度をとる計画も検討しています。一患者に対して2、3人の担当医においてタスクシェア、また年次休暇も取りやすい状態にできるようにもなるものと思われず。

[15]看護職員の研修機能

[15-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[15-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ある

[15-3]特記事項

協力施設として、奈良県立医科大学とろう孔管理関連を、京都橘大学と創傷管理関連並びに栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連を連携している。